

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 980 号	氏名	齋藤 信夫
学位審査委員	主 査 青柳 潔 副 査 由井 克之 副 査 森内 浩幸		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、インフルエンザワクチンの2シーズン連続接種によるワクチン効果への影響を過去の感染を考慮したうえで明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 過去の感染を把握しやすい離島において、インフルエンザ様症状を呈し、受診した患者を研究対象とし、インフルエンザ迅速診断検査結果陽性者を「症例」群、陰性者を「対照」群とに分けるデザインで、それぞれの群におけるワクチン接種歴とインフルエンザ罹患歴を収集し、前シーズンのワクチン接種が現シーズンのワクチン効果に及ぼす影響を評価するために、種々の統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、2 シーズン連続のインフルエンザワクチン接種によりワクチン効果が有意に減衰すること、さらにこの現象は、前シーズンにインフルエンザの自然感染がみられなかった群においては有意に認められることを明らかにした。今後のインフルエンザワクチン改良に向けて、研究の進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文はワクチン学の開発研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			